

平成 22 年度 総研大海外学生派遣実績報告書

1. 基本事項

所属：高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻

氏名：折笠 雄太

海外派遣先国名：アメリカ合衆国

海外派遣先大学名：アラバマ大学

海外派遣先大学所属：物理天文学科

海外派遣期間：4月21日～6月4日

2. 海外派遣先大学について

アラバマ大学はアラバマ州タスカルーサにある州立の総合大学である。素粒子理論の教員数は少ないが、素粒子実験の分野ではニュートリノ観測実験などで大きな役割を担っている。スポーツではフットボールが強く、2009年度のBCSナショナル・チャンピオンシップ・ゲームでは全米チャンピオンに輝いた。

3. 海外派遣前の準備

前年度に一度、今回の派遣先である大学には滞在していたため、ある程度派遣先のことも分かっていて、大した問題もなく準備を行うことができた。また、海外派遣先の受入教官とは共同研究を行っていることもあり、連絡や準備はスムーズに行うことができた。

3ヶ月以下の短期滞在だったので、ビザは必要なかった。

4. 海外派遣中の研究

普段の共同研究はスカイプを使った議論が主であったが、実際に同じ場所にいると食事時などちょっとした時間にも議論することができ、今までに比べ大きく研究を進めることができた。

授業については滞在期間の半分以上が試験期間や夏季休暇の期間に重なっていたため、ほとんど出ることにはなかった。

5. 海外派遣中に行った研究以外の活動

土日にバスが走っておらず、また鉄道も1日1本しか運転していないため、他の町などには行けず休日はホテルの近くを散歩することが多かったが、タスカルーサ市内の空港で航空ショーが行われた日は臨時バスが出ていたため、見物に行った。このようなショーを見る機会はあまりなかったので、とても楽しむことができた。

6. 海外派遣費用について

- ・航空機のチケット 約 20 万円
- ・宿泊費 約 20 万円
- ・食費 約 9 万円

程度であり、すべて今回の海外派遣費用で賄うことができた。

7. 海外派遣先での語学状況

生活で使う言語はすべて英語であるが、研究の話は相手が日本人であったので日本語で行った。英語は得意ではないが、聞き取れなかったところは聞き返したり、身振り手振りなどを交えることで、コミュニケーションをとることができた。

8. 海外派遣先で困ったこと

今回の海外派遣の中で困ったことは、帰りの飛行機が 24 時間近く遅れたことである。幸い日本の航空会社を使っていたため、シカゴの空港の窓口にも日本語が分かる係員がいて、ホテルの手配なども円滑に行えたが、予定より 1 日長いアメリカ滞在になってしまった。

9. 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

海外で短期間でも生活することは、日本とに違いを認識するためのいい経験になると思う。海外派遣の受け入れ先に心当たりがあるのなら、積極的にこのプログラムを使ったほうがいいと思う。